

新山協ニュース

第 13 号 新潟県山岳協会

発行者 鈴木敏雄

年頭に当たって

会 長 室 賀 輝 男

あけましてお目出度う御座居ます。昨年中は協会の皆様の多大な御協力により、協会運営が順調に行なわれましたことを厚く御礼申し上げます。

年末、年始からの降雪は、

三八豪雪をしのぐものと云われ、相つぐ交通機関の途絶、

地滑り、雪崩災害と県内外に

暗いニュースが走り廻り、加

えて年末年始から冬山に向

った登山者の相つぐ遭難事故の

ニュースが輻湊し、産業、経

済、社会に大きな波紋を投げ

かけた正月でした。県山岳協

会の加盟団体でも、今年は何

年になく冬山登山計画が多く

ありました。飯豊連峰、越後

三山、谷川岳連峰、米山、妙

高山、鹿島槍、南アルプス等

々で冬山合宿が実行されまし

たが、夫々無事故で成功、下

山された報告を載きました。

同じ山で同じ季節でこの明暗のニュースを聞き、勿論、運不運もさることながら、山の専門家として豪雪は言い訳にならない、冬山の厳しさは毎年同じこと、天候の変化は予報でわかるはず、万一遭難しても自力下山、自力探索、自力救助の原則を守らねばならないはずの山岳会員よ、どうしたのだと云いたくなりまし

た。

山の危険は山でなく、自らの心、山岳会の体質にあることをつくづく考えさせられ、

如何に登山がムツカシイ要素を多く抱えているスポーツか

を改めて思い、新潟県の岳人の組織と実力に思いをいたし

て居るものです。

さて、昨年は古い山歴を持つ水原山の会、新潟鉄工山の

会、北越銀行一峰会、朝路の

会の四団体の新加入で新しい仲間が出来ました。有難いこ

とです大いに交流を深めましょ。新潟県山岳協会の前身

となった、日本山岳会越後支部の創立と、県体育協会への

加盟から今年には満三十五年になります。県山岳が何処の団

体よりも誇れるものなかに、この創立期からの多くの先輩

達が健康で、現役として指導され活躍されていることです。

登山には定年がありません。終身現役です。各山岳会で、

この先輩を中心とした土壌の中で培れた、心と技と体力が

今冬の無事故、安全登山になったものと思われま

す。

今年は何点種目移行第2回目の滋賀団体を迎える年です。海外登山計画、山岳会の山小屋造り等々夫々の山岳会からの明るい希望に満ちた計画を承って居ります。特に国体山岳競技は天皇杯、皇后杯の得点種目になり、各県が山岳競技に一段と力を注ぎ、目立た

なかつた県が優秀選手を送り込むようになりました。新し

い競技になじめず、実力を発揮出来ずに上位入賞を失している現状です。県体協加盟の山岳部門の責任団体として、

一日も早く実力を発揮出来る体制作り全員が協力せねば

なりません。全国的にレベルの高い岳人を揃えた山岳県です。県民の山岳への期待は大であります。各山岳会

での国体登山についての見直しを切望します。

創立三十五年、青年期から

壮年期に入った山岳協会です。立派な社会人、大人として社

会的にも家庭的にも期待される年頃です。趣味を同じくする山岳会員として、一層交友

を深め、社会的責任を果しながら、二世、三世を育成し、

父から子へ、子から孫への心を中心とした、岳人の交わりを

続けて行きたいものです。そして今年も会員の皆さんが謙

虚な心で、安全で意義ある登山をされる事を念願致し、皆

さんの健康を祈念して年頭のご挨拶と致します。

夏山講習会に参加

越稜山岳会 山田 智子

梅雨あけも間近の7月19日夜、満天の星空の下で焚火を囲み、自己紹介から始まった今年の夏山講習会は、これまでの講習会と少々異った雰囲気の中で開講された。御神楽岳の麓、鉾山跡には幾張りも

のテントが、所せましと設営され、参加者も50名を超えたとか。

焚火から去りがたい気持で、私は12時半にテントへ潜ったが、翌朝の話では、延々と3時近くまで親睦を深めていた有志もあるらしい。

テントを叩く雨の音が目覚ましになり、テントから頭を出してみる。かなりの降りで、残念だなーと思いがら時計を見ると、まだ4時。もう少し寝ようかと又横になった。4時45分、「時間ですよー」と、一番鳥の美声を響かせて起床。雨は上っていた。全員が身仕度を整えて集合し、体操を行なったあと、経験者の新高ルンゼコース(24名)、初心者

の前沢コース(21名)、国体女子選手(6名)の3班に構成されて、5時半鉾山跡を出発する。

越稜の女性5名は、前沢コースに参加させて頂き、三富、今成両講師のご指導を仰ぐことになる。

湯沢出合より、前沢組は本谷へとコースをとるので、休憩のあと、頑張つてと激励し合い、新高ルンゼ組と別れていよいよ大滝直下で、朝食を済ませると、いよいよ前沢へ入った。夜明けの雨が嘘のように、青空も広がって、絶好の登山日和である。登り出してすぐ、当日の参加で、私達が朝食を摂っている間に前沢へ入った2名と合流する。

大小の石がゴロゴロしている細くて暗い沢の中を、数珠つなぎでつめて行く。最初の滝で、右岸と左岸をそれぞれ捲いて、三富さん、今成さんがザイルを垂らして下さる。

安全ベルトを付けながら順番を待つ。5米ほどのヌルヌルした滝で、自力で登らなければならぬのに、足元が滑べると、ついザイルを握ってしまう。中には登りきるまで両手でザイルを握りっぱなしの人もいて、三富さん、今成さんは、スタートから大変な労力を費やしたように伺えた。

ようやく全員がF1を登り、次は広くて明るい二段の滝、F2、F3と続く。ここで装備を付けて、三点支持の説明から講習が始められた。

ブルーリン結び、エバンス結び、八の字結びなどザイルの結び方、ハーケン打ち方、カラビナのかかけ方、ザイルの交し方、ブルージックの交し方、トップ、セカンド、ラストの確保の仕方等、実技講習を受けて、3人1組で実施訓練にとりつく。といっても私達は初心者なので、訓練というよりも本番と同じである。

ヘルメットや安全バンドなど、身に付けた装備がビッカピカの新品という人もあり、意欲が伺え、どの顔も明るく、和やかな雰囲気の中で講習会が

進められた。この二段の滝は、下から全望できるので、先行パーティの登り方を見ながら順番を待つ。私達初心者は登るのに真剣で、自分の登る姿など想像もつかないが、教える側からは、その恰格が珍芸に見えたり、冷汗ものだったり、様々な思いをされるのではないかと思う。

順番がきてトップで登り出し、途中でセルフビレーをしてセカンドを確保……近くで先生が見ているので、間違うと指適してくれるので、生徒にとっては、その場で間違いを改められ、又、安心して登ることができた。登りきるとザイルを回収して先行パーティに続く。三富さん、今成さんは、登ったり下りたり、私達の二倍も三倍も動いている感じで、助手の役目をしてくれる人が何人かいたらと思つた次第である。2米位のF4を登り、F5、F6が見える所まで上ると、3パーティがとりつき、1パーティが順番を待ちながら腹ごしらえをしていた。三富さん、今成さんは、それぞれ1パーティずつ誘導してい

るので姿は見えないが、各パーティごとに、反復練習をしたり、互いに声をかけ合っていて登っている。中間の辺りから声がかかってフリーで登って行くとき、私ごときにカラビナの交し方や、ザイルの結び方などを質問する人がいて恐縮するが、人に教えるということとは、自分自身が覚えることでもあり、丁寧?に説明をする(したつもり)。

全員がF6を登り、広い棚で昼食タイムになる。日差しもこちよく、この日初対面の人が多いのに、和気合い合いとして、楽しいひと時であった。昼食後は、ザイルの回収と投げ方、それに左岸を使って、懸垂下降の講習を受けて、降できないのに、下からブーんとコーヒの香りが上ってきて、動作とは反対に優雅な気持ちにさせてくれる。そのコーヒをご馳走になって、最後の小さいF7を登り、稜線に続くスラブにとりついた。広いスラブを、思い思いにルートをとって、全員が無事に栄太郎新道へと登った。額の

汗も流れるままに、前沢を眼下にしての休憩は格別であった。"らくだの背"に視線をやると、新高ルンゼ組の、湯沢の頭に向って歩いている小さな姿が見え、前沢組は、賑やかなコールを送った。

私が30才を過ぎて山に登り始めた時、岩登りはさせないと主人から言われ、沢や岩に登る主人達バードティと、頂上で合流する山行を続けてきた。現在も沢や岩登りはやらないので、春に行なわれる会の新人訓練と、泉山協の夏山講習会が、私にとっては本番である。講習会にも近年になってようやく参加を許され、いつ

になっても初心者の域を脱しないているが、山岳会に入会したことで与えられるチャンスには、私に可能な範囲で参加させて頂きたいと思っている。

これまで参加した夏山講習会では、一定の場所で終始講習が行なわれていたが、今回は講習を受けながら、全員が一本の沢を登らせてもらった。同じ所を登り下りすると異なり、変化もあって、講習を受けたという実感があった。又、一日行動を共にしたことで、親睦を深めることもできた。三富さん、今成さん有難度うございました。そして前沢組の皆さん、お世話様でした。

婦人部踏査登山

婦人部副部長

加藤 記代子

行事を計画するに当って、いうまでもなく一番心配するのが天候です。晴天に恵まれさえすれば、計画の50パーセントは成功したと考えるても過言ではないようです。

前日までは、西高東低の冬

型の気圧配置は、数日荒れまくり、悲痛な思いで暮らしていたが、当日から徐々に快復し夜の懇親会には星空をのぞかせ、星による方位の説明会もできるようになった。

また、気にしていた参加者

も四十数名に達し、どうかかっこうがつく人員になり、予定時間を遅れたが、予定に従って、新潟県山岳会の篠沢千夜子さんの司会によって進行された。開会の挨拶後平田大六婦人部対策部長による「踏査について」の講習が行なわれた。誠に手取り早い適切な問題を出題され、解説しながら楽しいうちに進められました。

引き続き翌日の現地での踏査問題の解答補足に、水平距離・高さについての簡単な説明を夫、加藤明文からしていただいた。殆んどの方がコンパス(磁石でない)を指定してあったにもかかわらず持ってこられず、このへんにも踏査の指導不足と遅れを感じられた。従って、楽に水平距離の出し方を指導できず誠に残念でした。

その後、「山と私」という課題で、長岡ハイキングクラブの金内幸子さんから入山の動機などから話していただき越後山岳会の山田智子さんからは、旦那様によって、登山が始まったこと、夫を山で亡くしてもなおかつ負けずに頑張っていることを話され、参加者の心を引く熱いものがありました。

また、下越山岳会の五十嵐篤雄さんから、戦争当時の登山の貴重な体験談などを聞かせていただき、協会副会長上村幹雄さんの閉会の辞で講習会を終了しました。

講習にしては、時間があまりにも少なく十分ではなかったので、踏査登山で補うよう心がけました。

少年自然の家では、禁酒であるから夕食は、野外で焚火を囲んで懇親会を行なった。焚火は、笹村村うすゆき山の会の方々から応援をいただき、苦勞して大木などを運んでいたおかげで愛情の温もりが暖かく伝わり、尽きることなく大きく燃えていた。

り、振り付けありで宴は、時をすっかり忘れさせてしまい門限になり、おおあわてして三分間の後始末のありさまでした。息をのみ宿舎に入ったというハプニングで、その余韻は各部屋でこっそり残っていたようでした。

翌、眠い目をこすり、二日酔いをひたむきに集合。踏査登山は、三班に分れ、三の峰から菱ヶ岳の縦走であった。

快晴に恵まれ、暖かく春が訪れたかのような錯覚さえ覚え心を弾ませながら落ち葉をカサカサと踏みしめる。静寂な峰と眠りについた木々に初冬を感じ、季節の移り変わりゆく様を山で味わいつつ歩む。三の峰直下から新雪を踏み、冬山の厳しさと美しさを脳裏に描く。

藁までに水平距離・高さ。一等三角点などの諸問題が五題出題され、しかも、現在地点を記入していくやり方で国体の模倣のよう各各ごとに苦心していた。リーダーが懸命に指導している姿は、講習会の不足を十分補なわれたよ

うで、今回の目的が有意義であったと自負しています。

菱山頂で出題の解説があり胸をときめかせた人、なでおりした人さまざまで現地で地図を読むという意義・姿勢を身につけたようであった。

余談ですが、ある方は、皆さんがこんなに学んでいるとは思わなかった。しかも、女性なのに色々の技術を身につけ素晴らしい。女性は結婚するまでの人生だから、ただ楽しく登山をしていればそれでよいと教えられ、自分自身も思っていた。自分が惨めであることを自覚し、自身の向上を語っていた方があり、私自身以外なこと、ビックリするやら当惑さえ感じてしまいました。

菱山頂でわきあいあいと昼食をすませのんびり下山し、解散したのでありますが、これを機会に登山の基礎知識の足がかりになり前向きな姿勢で、皆で手を取り合って前進していくことができれば、この度の踏査登山の計画が一応成功したのではないかと私なりに考え喜んでおります。

「山と私」

越稜山岳会 山田 智子

皆さん今晚わ。「山と私」という表題をいただいたのですが、私には、山を語れるほどの山歴も経験もありません。私よりも、皆さんの方が、豊富な経験をお持ちと思います。中味の濃いおしゃべりはできませんが、ちょっとの間、お耳を拝借させて頂きます。

私が山を語る時、と、少々オーバーな表現ですが、必ず登場させなければならぬ人物がおります。それは、我が愛する旦那様です。私の場合、山へ登りたい、山に登ってみたいという、憧れや動機から登り出したのではなくて、山男の主人と結婚をしたこと、山登りが始まっているからです。それも、結婚して8年後、30才を過ぎてからでした。

当時の私には、大変勇気のいることだったのですが、主人が気持よく賛成してくれたというよりも、喜んでくれましたので、私の山行が始まりました。でも、条件を出されました。最大の条件が、家事をおろそかにしないこと、でした。そして、山行の後始末はその日のうちに済ませること、体力や経験不足で、山では半人前なことから、会務をできるかぎり手伝うこと、若くないんだから、岩登りはさせない、と、きつく言いわたされました。主人が在会の、越稜山岳会へ入会ということになりました。

それから8年あまりになり山登りを始めてから、日常生活が慌ただしくなりましたが、以前にも増して、健康には気をつけるようになりまし。たし、何よりも、素晴らしい山の仲間めぐり逢うことができました。主人の庇護下で、弟や妹のような若い人達に助けられて、今日まで登って来ました。

勿論尾根歩き専門です。岩や沢登り山行では、主人達パーティーと山頂で合流します。普段は岩登りを止められていますので、会で行なわれる春の新人訓練や、泉山協主催の夏山講習会が、私にとっては本番の岩登りです。1年の間に何回もありませんので、いつになっても初心者の方を脱しないのですが、山岳会に入会したことで与えられるチャンスには、私に可能な範囲でチャレンジしたいと欲張っています。と、優等生みたいなことを言っています。その実は、もう少し若かったらなーと、残念に思っているのが本音です。

会の平均年齢をアップさせておりますが、私自身は、入会以来、主人の応援と、越稜という恵まれた環境の中で登られることを、大変しあわせに思っています。女性の場合にはとくに、結婚をすると、山から遠くかざるを得ない人から多いようですが、その点、私はラッキーだったと喜んでおります。

会の山行には一緒に参加しますが、我家の中年パーティーと称して、あちこち2人で登りました。休みが合わなければ、縦走してくる主人と、最後のピークで合流したり、日頃は岩登りをさせないという主人が、可哀想だからたまには、と言って、猿まわしで沢登りをさせてくれたり、お揃いのセーターを編んだり、若い人には羨ましく写ったようですが、我家の足跡として、楽しい思い出がたくさん残っています。

主人の親は、山登りをやめさせたい為に、結婚をせかしたらしいのですが、山以外の遊びには目もくれず、家でも私にはもったいない位いい旦那様でしたので、回りのおことには耳をかさず、全面協力をして来ました。

その佳きパートナーも、2年前に一ノ倉沢で亡くなりましたので、今は、越稜の仲間にも助けられながら登っています。これからも山との縁は切れずに続くと思えますが、い

つも、小さくてもいいから、目標を持って主人に言われておりましたので、当面の目標は、まだ頂上を踏んでいない県内の山に登ること、前の年の山行日数を、1日でも上回るように頑張ること、そんなさやかな目標を立てて登っています。又、大きな課題は、若い人の足手まといにならないように頑張ること、机上での勉強です。これまで、私の不勉強もさることながら、あまりにも主人が優しすぎたんだと思います、山では主人がすべての役割りをしてくれて、ついて行くことが私には一番安全なことでした。あ

し、かけ7年も一緒に登っていながら、確実に身につけていたものが少なくて、今頃になって後悔しています。その意味で、今回の行事は願ってもない機会になりました。主人が元気のときは、ただ、ついて行くだけの自主性のない山登りでした。このたび「山と私」という表題をいただいたことで、私自身の山登りを反省すると共に、私にとって、山とは何であるか、あらため

て考えてみました。でも難かしいですね。答はクエスチョンです。私にイエスは、山は主人そのものであり、これからは登り続けたいということですが、

40の手習いになります、いろいろなことを皆さんと一緒に勉強して行きたいと思えます。山歴も浅く、体力も経験もありませんので、大きな望みは持てませんが、大勢の山仲間には勿論、山登りの楽しさを教えてくれた主人を想いなが

玄山会の報告

恒例の玄山会が11月15日、16日に越後、会津の県境にあつて、かつては速い速い山として眺められて来た貉ヶ森山(一、三一五)で行なわれた。

齊藤平七

室谷から開かれた大久蔵沢林道と只見金山町三條部落から開かれた蒲生川林道とがあと1kmで北面日尊倉山への鞍部で合流しようとしている、この林道より小沢となった大久蔵沢源流を辿れば藪こぎだ

ら、健康でいるかぎり、山とも仲良くして行こうと思つています。どこかの山で、ノロノロ歩いているのを見かけましたら、くたびれていても、笑顔だけは一人前のつもりです。声をかけて下さい。

主人の話になりますと、きりがありませぬので、これで終らせて頂きます。今日はありがとうございました。ごさいました。

子親陸登山「踏査」の勉強会にて、

11月16日寒い朝が明けた、昨夜の天気祭りが効を奏したのか上天気である。朝食もソコソコにマイクロとジープに分乗して出発である。今朝の参加者も混って大混雑となった。林道は延々とブナ林へと続き、河内の山並が朝モヤを

雪の林道は自動車道を歩くのがケタクソ悪いのか、昨晩のお神酒の呑みすぎで足元がおぼつかないのか本当に歩きにくい、目差すお山はまだはるか彼方に望まれる。林道つめからの急登は藪に雪ががぶってふみぬきの尾根

の山名で開会、盛大な懇親会がもたれた。昔話や河内の山々に花が咲く一方旧交をあたためるものなど三十数名が賑やかに時のすぎるのも知らぬ気である。

登りとなる。前ムジナを経て山頂へは90分のアルバイトでたどり着いた。三角点を廻り出して持参のお神酒で乾杯となるも、貉ヶ森山も一辺に35名も上られてさぞやビックリしたことだろう。藤島玄氏、佐久間淳一氏の戦前、戦中、終戦直後時代の貉ヶ森、河内山々の苦労話を面白く聞きながらの浅草岳、守門岳、御神楽岳、磐梯山と三六〇度の展望は素晴らしいものだった。猪苗代湖でとれたスルメ、ワカメが出る頃を最高潮にして大久蔵の小沢を一気に林道へ急降下、乗りすてたマイクロへと急いだ。車中は満ち足りた満足感が充満し、大日岳の夕日に輝く崇高なまでの勇姿に感激したり、御神楽岳のシルエットに快哉を叫びながら暮色せまる古沢屋へと帰って来た。

現役引退?を表明している藤島玄さんだが元気で一等三角点を踏んで貰ったし、しかも大盛会だったことを委員一同大いに喜んでまたの再会を約して楽しかった山行の会を散会した。

当番を引き受けて頂いた亀

田山岳会の皆様、案内役の東
薄、斉藤弘君のご苦勞を謝し、
次の「玄山会」を昭和56年11
月14日15日会津喜多方、矢田
目昇君担当で行なうことを決
めた。

国体選手

強化委員

決まる

藤井 信 (国体委員長)
速藤 一次 (国体副委員長)
片桐 一夫 (長岡ハイキング
クラブ)

第36回国民体育大会

山岳競技

新潟県予選会 案内

期日 昭和56年4月11日(土)
12日(日)

会場 長岡市 東山連峰

集合地 長岡市悠久町

日程 受付11日10時
10時30分

一日目 踏査競技

登攀競技

二日目 縦走競技

申込み 長岡市学校町1-12 23

問合せ 新潟県山岳協会

室賀輝男 宛

電話 0258-32-0428

会費 成年選手 一五〇〇円

一般 一五〇〇円

少年選手 一〇〇〇円

役員 五〇〇円

申込み切 3月30日(月)

一、会議の主旨(体育課長説明)

①今冬、本県においても冬山
遭難事故が発生した。

②過日の新聞報道にみられる
ように、県知事が何らかの
措置を講ずる旨の意向を表
明している。以上のことから
本協議会としても、何ら
かの対応をせまられている
状況にあると思われる。

二、県条例を制定することにつ
いて

①結論として、県条例で規制
することは適当でない。一
多数意見。

(理由)

①新潟県内には、谷川岳(群
馬県) 剣岳(富山県)のよ
うに、特に入山規制をしな
ければならない山域はない。
②とすれば県下全域を対象と
する規制となるが、それは実
際問題として実行困難である。
③また、仮りに訓示的な条例
を制定したとしても、実行
は得られないと思われる。

三、要綱、基準等を作ることに
ついて

①条例が適当でないとする、
要綱あるいは基準みたいな
ものが考えられる。

②今冬のように、遭難事故の
ために行政体や地元にも多大
の迷惑をかける者がおり、
今後その傾向が絶無でない
とするならば、やむを得ない
のではないかと多数意見。

③その場合でも単に訓示的な
ものでは無意味であるので、
実効の伴う方向で検討すべ
きである——県山協意見。

(例) トランシーバーの携
帯義務づけ↓無線通信ネッ
トワークの確立。登山届の
提出↓チェック機構の充実

(予算的、人的)等

四、今後の方向

①条例は無理である。

②長野県においても基準策定
の動きがあるようなので、
それらを調査したうえで、
今後基準を作るのか作らな
いのかを含めて検討してい
きたい。結論は急がない。

(保健体育課)

五、その他県山協の意見(調査
要望事項)

①登山届けはどこが受付け
るのか。

②チェックはどうするのか。
(特に地元山岳団体との意

見調整の方法など。)

③無線ネットワークの有効な
利用方法はないか。
(以上につきまして、各団体
より、ご意見、ご希望、問い
合せがありましたら、協会事
務局までご一報下さい。次回
会議の参考にしたいと思いま
す。)

山岳団体リーダー・
指導員研修会報告

2月15日、長岡市自治会館
において標記催しを、9時30
分より実施、各団体より今冬
の活動報告、藤島名誉会長長
山の話。お昼休みはBURM
Aスライド。午後、近藤信行
講師講演で研修会終了。

81名の参加あり、講師、各
団体との親睦会にも33名の多
きが参加。長岡市内一日中賑
わいました。

(田中栄弘)

あとがき

豪雪、豪雪、みんな無事故
で帰って来い。山岳保険更新
時期ですぞ。お忘れなく。

新大山の会

藤井 洋

期日 2月17日(火)

出席者 県教育長、県保健体
育課長、名塚担当、県警本
部警備二課長、県消防防災
課長、県観光課長、気象台
予報課長、県山協藤井

報告

新潟県山岳遭難
防止対策協議会

報告

報告